

北九州PCB廃棄物処理施設のトラブル事象等

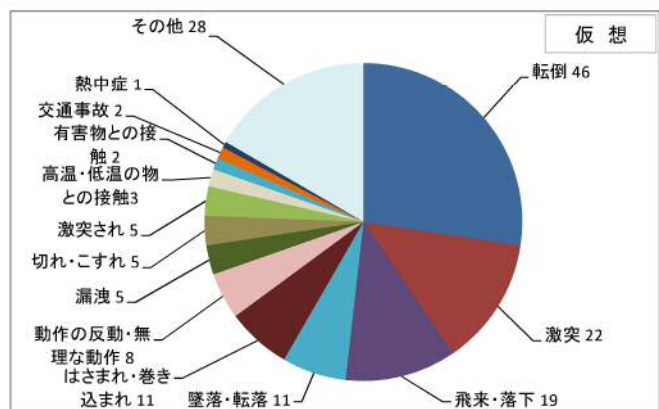
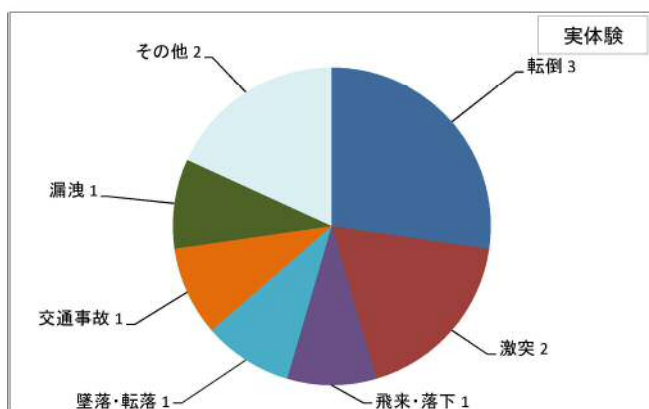
■トラブル事象(平成31年2月～令和元年6月)

No.	発生日	発生場所	概要	対応状況
1	9月20日	2期3階VTR-A号機、VTR-B号機	処理完了で炉蓋を開放した際、炉内内側、内部ドア下及びドア下に設置したオイルパン上に油の少量の漏れを発見。	漏洩した液を拭き取ったところ、漏洩液には水分が含まれていた。 同一保管事業者からの処理物(素子等)を、VTR処理した際に、処理物内に水分を含んでいたため、冷却時に結露したことによるものであった。 同一保管事業者の同様の処理物に対し、処理時間を延長して対応した。その後の再発はない。
2	10月1日	2期1階中間処理エリア充填用ドラム準備缶置場	充填用ドラム準備缶(空ドラム)の置場を整理中、ドラム缶を移動したところ、防油堤敷鉄板上に油の少量の漏れ跡を発見。	漏れ跡を拭き取り、ドラム缶底部を確認したところ、ピンホールを発見。当該缶の履歴を確認したところ、VTR回収木酢液槽のスラッジをろ過した液を4日間入れていたため、残液により腐食したものであった。 VTR回収木酢液槽のスラッジのろ液など酸性の液体をドラム缶に充填する際は業務連絡書により内袋を使用することとしていたが、ろ過後にドラム缶を再利用する際の内袋利用について明記がなかった。業務連絡書を改訂して、内袋の使用を明記した。その後の再発はない。
3	10月22日	2期1階VTRシャワー油室VTR分析タンク排気配管	VTR分析用タンクの始業点検中、分析用タンク1Cよりベントスクラバへ接続している配管の下部に油の少量の漏れを発見。	漏洩した液は分析用タンクのベント排気に含まれている油分で、油分中のPCB成分により配管にピンホールが生成したことによるものであった。 漏洩した液を拭き取り、排気配管の漏れ箇所を樹脂テープで補修した。その後の再発はない。 なお、本年11月の定期点検時に配管更新を予定している。

■ヒヤリハット事例(平成30年7月～令和元年6月)

年	H30						H31				R1		小計
	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	
実体験	3	0	0	2	1	1	0	0	4	0	0	0	11
仮想	12	15	14	14	19	15	14	15	10	12	16	12	168

"実体験ヒヤリハット"は提案者が現場で体験してヒヤリ・ハットした事象であり、"仮想ヒヤリハット"は提案者が現場でもししたら発生するのではないかと考えた事象。



北九州PCB処理事業所第1期施設 解体撤去に係る今後の予定

	平成30(2018)年度	令和元(2019)年度	令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	令和7(2025)年度	
処分期間、事業終了準備期間	計画的処理完了期限▽		事業終了準備期間						
北九州市PCB処理事業監視会議	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	▽	
ステージ	営業物処理	解体撤去－第1段階－			解体撤去－第2段階－				
第1期施設 装置・設備の稼働予定									
営業物処理に係る装置・設備	抜油・粗解体設備等								
解体撤去準備作業に係る装置・設備		洗浄設備、液処理設備、蒸留回収設備等							
周辺環境、作業者の安全衛生に係る装置・設備	空調設備、排気処理設備、モニタリング設備、電気設備、排水処理設備等								
解体撤去－第1段階－	7月29日								
①解体撤去・先行工事による手法・技術の確認	先行工事等準備								
②解体撤去・本工事の事前作業	事前作業準備								
③解体撤去・本工事の実施計画の作成	社内検討								
④解体撤去・本工事の仕様取りまとめ、入札・発注	社内検討								
⑤解体撤去・本工事の施工計画作成、施工準備									
解体撤去－第2段階－									
解体撤去・本工事の施工					プラント設備 除去分別・解体工事	建築物 除去分別	建築物 解体工事		

今後の検討の進捗により、変更になる場合もあります。